**３　　「サービス提供職員へのスーパービジョン」**

ワークシート別紙

**●　目標**

**ロールプレイングを通じてサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としてサービス**

**提供職員等へ実施する。スーパービジョンの構造や機能を理解し、具体的な技術を獲得する。**

**〇事例から学ぶスーパービジョン：障がい者支援施設（入所）でのケース**

**＜事例＞　今田さん：支援員（女性）、支援業務　１年目、２８歳**

**大泉さん：支援員（女性）、支援業務１０年目、４８歳**

**福山さん：サービス管理責任者（男性）　　永瀬さん：利用者（女性）**

**・今田さんは相談支援専門員だったが、直接支援がしたいとの想いから配置転換を願い**

**出て、今年度から利用者の直接支援を担当する支援員になった。相談の経験を活かし、**

**利用者の立場と視点で支援を考え、支援の質を向上させたいと仕事をこなしていた。**

**・ところが最近、なぜか元気がない。サビ管の福山さんがそれとなく「どうしたの？」と**

**尋ねると「個別支援会議で決められたことが、なかなか職員間で共有されてなくて、**

**困ってるんです。」と話し始めた。**

**・「昨日の早出で出勤した時、利用者の永瀬さんに起床介助をしたら、永瀬さんは夜間**

**もオムツは着けないことになっているのに、誰かがオムツを着けていました。」**

**・「昨日の夜勤は大泉さんだったので聞いてみたら「へぇ～、夜間はオムツを着けない**

**んだ？そんなこと、いつ決まったの？」と普通に言われました。」**

**・私が「この前の個別支援会議で決まったでしょ？」と言うと「私は出てないんだから、**

**そんなこと知らないわよ」と言って、そのまま食堂に行ってしまいました。」**

**・「私は利用者さんの支援を統一するために個別支援会議をしていると思っていたのに、**

**そこで決められたことが職員間で共有されないんだったら、何のための会議なのか…**

**もうわからなくなってしまいました。」と、思い詰めた表情で話をした。**

**・福山さんは当日の夜勤者の大泉さんと面談を行った。「永瀬さんのオムツのこと、個別**

**支援会議で決まった内容は知ってるの？」と尋ねてみた。**

**・大泉さんは「知ってるけど、寝ている永瀬さんをわざわざ何回も起こしてポータブル**

**トイレに座ってもらうより、しっかり寝てもらう方が大切だと思うからこそオムツを**

**着けたんです。」と硬い表情で話した。**

**・「そうなんだ。だったら、そのことを会議で伝えてあげたらいいのに。」と助言すると**

**「大勢の前で話すのがちょっと・・・。永瀬さんのこと考えたら・・・・。」**

**「今田さんは…自分が相談員だったからって、今までのやり方をみんな変えようと…**

**支援員としてはまだ新人なんだから、今までのやり方を尊重するべきなのに」と大泉**

**さんは今田さんの批判を始めてしまった。福山さんは状況がある程度は把握できたが、**

**今田さんに説明をする等、対応ができないままに数日がすぎてしまった。すると**

**・「やっぱり、他の支援員さんとうまくいかなくて…」と今田さんが再び相談に来た**